

# カリキュラム・マネジメントの 現在地と今後の展開

早稲田大学 教育・総合科学学術院  
田村知子

# 各学校による主体的なカリキュラム開発や教育課程編成・実施・評価・改善を支える概念として発展

## 第1期

1958年 学習指導要領「告示」

1950~60年代 教育課程行政論、教育課程管理論

1970年代 学校を基礎としたカリキュラム開発(School Based Curriculum Development)の紹介

1970~90年代 各学校が主体となる教育課程経営論 教師は授業経営者でカリキュラム・メーカー  
学校の教育目標の具現化、教育活動と条件整備の対応、PDSサイクル

ますます重要に

## 第2期

1998/99年 学習指導要領改訂 「総合的な学習の時間」新設:全ての学校において、カリキュラム開発が必須

1998年 中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」:学校の自主性・自律性の強調、裁量権限拡大  
特色ある学校づくりが求められる

1998年前後 カリキュラムマネジメントの用語を使用した研究の登場 ※研究では「・」のない表記が多く使われている

「連関性」と「協働性」、PDCAサイクル、学校外部との連携・協働、実証化、実践化、ワークショップ型研修など方法論開発

2003年 中教審答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」で言及  
以降、政策文書での言及が重ねられていく

2004年 教員研修センター(現:教職員支援機構)「カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」開始

## 第3期

2017/18年 学習指導要領の鍵概念として「カリキュラム・マネジメント」明記

資質・能力、主体的・対話的で深い学び、社会に開かれた教育課程、「三側面(教科等横断的、評価・改善、人的物的資源)」

2020年 コロナ禍の影響下におけるカリキュラム・マネジメント実践、GIGAスクール加速化

2025-6年 学習指導要領改訂に向けて「新たなカリキュラム・マネジメント」を議論中

主体的・対話的で深い学びの実装, 多様性の包摂, 実現可能性の確保, 柔軟な教育課程, 調整時数制度

## 今回事務局「カリキュラム・マネジメント」整理の意義

- カリマネの目的「何のために行うか」の意識化を促す
- カリマネを学校の「課題解決過程」として整理
- カリマネが「動的」な営みであることを示唆  
年度途中の柔軟な変更・調整，「循環」的な営み
- 学校教育目標や経営方針も，必要に応じて柔軟に見直す対象
- 教職員のみならず地域住民や児童生徒などとの対話・協議の重視
- 「教育課程の編成・実施・調整」と「人的・物的環境の整備」の対応関係  
「何を実施しないか」にも言及  
教育委員会の役割（条件整備・伴走支援）に言及

## 「3ステップ」の意義と留意点

「何から始めればよいかわからない」学校への手がかりとなる可能性  
導入への心理的負荷の低減，理解形成の入口として機能する可能性

一方で，学校の実態・課題・資源・戦略等は多様

すでに独自のカリマネに取り組む学校も多い

研究・実践の双方から多様なマネジメントサイクルが提案・実施されてきた

例) PDS (Plan-Do-See) → SPD, PDCA (Plan -Do -Check-Act) → CAPD, DCAP, R-PDCA,

ダブルループ学習, SECIモデル, OODAループ, AARサイクルの応用 他

文部科学省委託研究「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究 (令和元・2・3・4年度)

※「3ステップ」を契機として参考に着手した学校が，それぞれの実態や課題，資源，戦略等に応じて，あるいは実践を通して，柔軟にカリキュラム・マネジメントを自校化・発展・最適化していくことが重要

※すでに独自に取り組んできた学校に対して，規制的・画一的に働かないよう配慮することも必要

※カリキュラム・マネジメント自体が，今後も学校実践の中で開発され続けていくことを期待したい

# さらに検討・発展が期待される点

## カリキュラム・マネジメント自体の捉え方や記述

- ・カリマネの「三側面」で示した要素は引き続き重要  
それぞれの重要性が失われたわけではないことを強調すべき
- ・調整時数はカリマネの重要な要素だが目的ではない  
手段の目的化とならないよう万全の注意を。
- ・「教育課程の編成・実施・調整」と「人的・物的環境の整備」のつながりを文章・図で明記

## カリキュラム・マネジメントと関連する論点

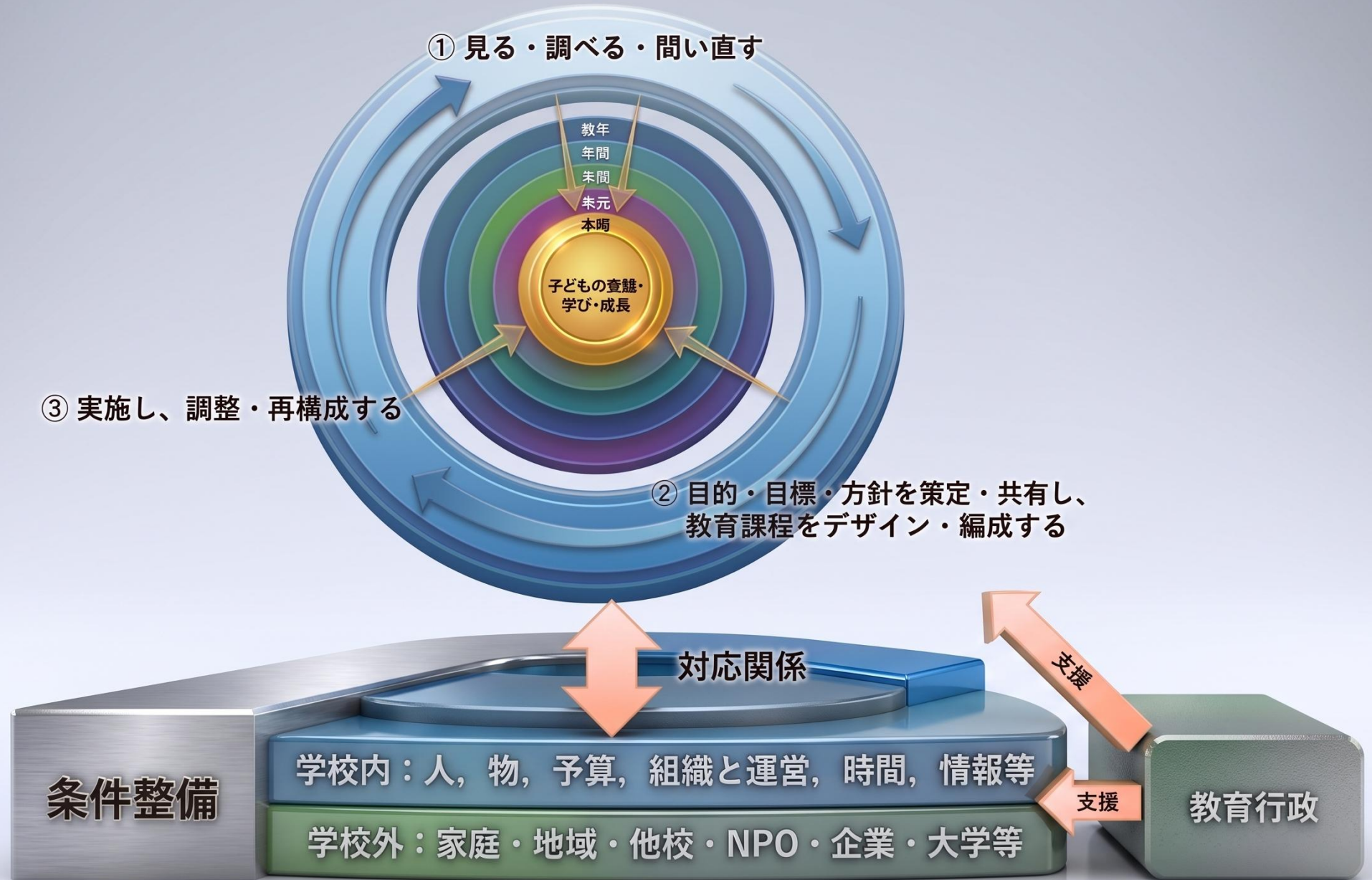
- ・学校評価との関係整理
- ・高校におけるスクール・ポリシーを起点としたカリキュラム・マネジメント
- ・「総合的な学習/探究の時間」等との関係（カリマネの軸）

## マネジメントの在り方

- ・日常的な形成的評価と総括的評価の接続
- ・教育行政による学校の条件整備と伴走支援

## 学習指導要領本体と解説との棲み分け

- ・「3ステップ」の具体など方法論，実践事例は解説や指導資料へ
- ・デジタル媒体等を活用した継続的更新



## 参考文献

- 安彦忠彦『教育課程編成論』放送大学教育振興会, 2002, 39-45
- 天笠茂『学校経営の戦略と手法』ぎょうせい, 2006
- 天笠茂『カリキュラムを基盤とした学校経営』ぎょうせい, 2013
- 石井英真「カリキュラム・マネジメント再考-授業改善を軸にした学校改革へ-」九州教育経営学会研究紀要第26号,2020, 7-14
- Kuramoto Tetsuo and associates, Lesson Study and Curriculum Management in Japan, 2014,ふくろう出版
- 文部科学省『カリキュラム・マネジメントの推進に関する手引き』2022, 2024, 『活用ガイドブック』2024  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/new/1389014.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/new/1389014.htm)
- 文部省編『カリキュラム開発の課題-カリキュラム開発に関する国際セミナー報告書』文部省大臣官房調査統計課,1975
- 中留武昭『戦後学校経営の軌跡と課題』教育開発研究所, 1984
- 中留武昭『総合的な学習の時間-カリキュラムマネジメントの創造』日本教育総合研究所, 2001
- 中留武昭「学校と地域とを結ぶ総合的な学習-カリキュラムマネジメントのストラテジー」教育開発研究所,2002
- 中留武昭編『カリキュラムマネジメントの定着過程』教育開発研究所, 2005
- 高野桂一編著『教育課程経営の理論と実際』教育開発研究所, 1989
- 田中統治「特色ある教育課程とカリキュラムマネジメントの展開」児島邦宏・天笠茂編『柔軟なカリキュラムの経営』ぎょうせい, 2001, 35-63
- 田中統治・根津朋実『カリキュラムの理論と実践』放送大学教育振興会, 2021
- 田村知子「カリキュラムマネジメントのモデル開発」『日本教育工学会論文誌』29 (Suppl. ), 2005,137-140
- 田村知子「カリキュラムマネジメントへの参画意識を促進する校内研修の事例研究」日本カリキュラム学会編『カリキュラム研究』vol.15, 2006, 57-70
- 田村知子「カリキュラム・マネジメント研究の進展と今後の課題」日本教育経営学会編『教育経営学の研究動向』学文社, 2018, 24-35
- 田村知子『カリキュラムマネジメントの理論と実践』日本標準, 2022
- 田村知子・本間学「カリキュラムマネジメントの実践分析方法の開発と評価」『カリキュラム研究』23, 2014, 43-55

学校・設置者の協働による開発